

12月定例会
総括質問
 主な質問と答弁

野崎 審也 議員

平成26年度予算編成基本方針から

問 4月に市長は任期最後の年を迎えるが課題は。

市長 平塚に住んでよかったと思えるまちづくりを進めるために、私の思いを市民に発信し、共有していただくことが大切だと考える。

問 87項目のマニフェストの検証は行っているか。

市長 任期最後の年の夏から秋にかけて、マニフェストの外部評価を考えている。

問 本市の財政状況と中期の財政見通しを伺う。

市長 一定の健全性を確保しつつも、地方財政制度の見直しによる影響で先行きは不透明な状況である。少子高齢化に伴う扶助費や3大事業などの市債を償還するための公債費、既存の施設の長寿命化のための経費が増大すると思われる。

時間外勤務手当

問 平成24年度の市職員の時間外勤務手当の支給額は10億5000万円である。時間外勤務削減事業の取り組みや課題を伺う。

市長 「ノー残業デー」の拡大、時間外勤務の届け出の徹底、夏期の早出勤務な

清風クラブ

どを行い、取り組みの周知を徹底した。平成22年度と比較して全体で約5400万円削減できたが、削減できていない部署もある。

問 数年連続で時間外勤務の多い部署が複数あるが、改善策を伺う。

総務部長 専門的な職種では人材の確保を図るなど、人員配置や業務の見直しなどを考えている。

問 年間900時間を超える時間外勤務をする職員が数人いる。メンタルヘルスの問題は無いのか。

総務部長 月80時間を超える時間外勤務をした職員には、保健師や産業医が面接指導をしている。

住みたいまち平塚ツインシティ計画

問 ツインシティ整備推進事業の本市の目的や位置づけを伺う。

市長 ツインシティは神奈川県が県土の南のゲートとして計画中の事業で、本市はこれを総合計画やマスタープランに位置づけ、市の「北の核」と捉えている。新幹線新駅や広域自動車道へのアクセスの利便性を生かした新たな産業や業務機能の集積を目指し、居住人口3300人、従業員人口6000人を想定している。

問 固定資産税や都市計画税などの増収増加分を財源とするTIFの手法で経済波及効果を算出すると、完成後の経済効果は年間約8

億円、10年で80億円と試算される。このような投資効果に対する見解を伺う。

都市整備部長 TIFだけでなく、投資効果や消費効果なども含め、全体で考えたい。

問 県の行政施設を大神地区に移転させる計画もあつたと聞いているがどうか。

市長 政令指定都市の横浜市に県庁がなくてもよいとの議論はあるが、今県庁への移転を目指す段階にない。

佐藤 貴子 議員
男女共同参画の推進

問 本市の行政運営における女性参画推進の取り組みについては、本市の「行政改革実施計画」にも示されているが、目標の達成は難しい状況である。将来を見据えて、実績を積み上げていくために、男女共同参画の主管課が一歩踏み込んだ管理体制を敷く必要があるのではないか。

市民部長 各課長と男女共同参画推進担当者を集めて研修会を開いたり、職員への情報提供をしたりしている。課題を抽出するためのアンケート調査を行い解決に向けた対策を考えている。

問 市民団体や経済分野の団体などに向けては、どのように啓発しているのか。

市民部長 自治会には会合に出向き啓発している。経済団体からは、平塚市男女共同参画推進協議会において、経済分野の視点に立つ

た意見をいただいている。

問 平成26年度中に設置する成年後見利用支援センターの現状と課題を伺う。

福祉部長 今年度は同センターの「設置懇話会」を開催し、その機能や体制などについて検討を重ねている。これと並行して県や社会福祉協議会と連携し、市民後見人の養成など具体的な事業にも着手している。

問 人口や財政基盤などにより自治体ごとに異なるため、本市の実情に見合った体制を作っていく。併せて、市民に対する制度の普及・啓発をすることが現状の課題であると認識している。

成年後見利用支援センターの設置

問 具体的にどのような啓発をしていくのか。

福祉部長 本市と平塚市社会福祉協議会、高齢者よろず相談センター、障がい者相談支援事業所において研修会を実施した。センター

設置後は、インターネットやマスコミを通じた広報活動を実施する。また、市民向けの普及啓発セミナー、親族後見受任者などを対象にした研修や交流会、金融機関を含む企業を対象にした出前講座などを開催する予定である。

問 厚木市では予防接種や夜間診療などの案内と社会福祉協議会の機関紙を市の広報と一緒に配布している。福祉や健康に関することから、本市でも同様の方法はとれないか。

企画政策部長 本市の広報紙「広報ひらつか」には、「議会だより」や災害対策の地図などを折り込んでいる。効率的、効果的な印刷や配布をする必要があるが、対象や目的の違いなどの課題もある。他市の事例を研究し、効果的で経済的な広報活動を検討する。

数田 俊樹 議員

指定管理者制度

問 指定管理者制度を導入している施設において、市民は施設利用者の声をどのように把握しているのか。

企画政策部長 市民サービスの向上を目的に、指定管理者による施設利用者へのアンケートを年に1回以上行っている。

問 管理者自らが行うアンケートでは、不正があつた

場合や管理者の都合が悪い場合に市民の声が埋もれてしまつことが危惧される。モニタリングの仕組みづくりが必要ではないか。

企画政策部長 指定管理者制度は、施設の管理運営自体を管理者に任ずることで管理者が責任を持つて行うことが原則だが、管理者に丸投げするものではないので、市としてしっかり管理していかねばならないと理解している。モニタリングの精度を上げていくことも検討していく。

問 一方で、チェックを強化しすぎると、指定管理者が管理をしづらくなる。管理業務をしやすく、チャレンジをしていけるような環境づくりをしていく必要があるのではないか。

企画政策部長 規制をできるだけ少なくするよう努める。また、自由にやってみると、結果が悪かったのであれば改善させる仕組みを考えていく。

市の広報活動と情報伝達のあり方

問 本市の観光行政において「年間を通して七夕を感じるまち」をテーマに、

「湘南ひこまるくん」と「ひらつかナナちゃん」の活用、七夕まつりをデザインした下水道マンホール蓋の使用などがある。また平成25年7月には、平塚青年会議所とJR平塚駅の尽力により、平塚駅の発車メロディが「たなばたさま」に変更となり、市民に好評なことから、これと合わせて平塚駅構内に七夕飾りを常設するための費用を今回の補正予算案に計上した。

問 観光事業を打ち出す戦略には、分かりやすさ、イメージのしやすさが大事である。観光事業の軸をしっかり持って、産業振興の計画を立てていただきたい。産業振興部長 しっかりと盛り込み、振興計画の改定、見直しの中でこれからの観光の道を明らかにしていく。

じられるまち」のさらなる強化が必要だと考えるが、取り組みはあるか。

産業振興部長 七夕まつりの期間以外の取り組みとして、紅谷町まちかど広場への七夕まつりのバックパネルの設置や、湘南スターモール商店街振興組合オリジナルの七夕キャラクター「湘南ひこまるくん」と「ひらつかナナちゃん」の活用、七夕まつりをデザインした下水道マンホール蓋の使用などがある。また平成25年7月には、平塚青年会議所とJR平塚駅の尽力により、平塚駅の発車メロディが「たなばたさま」に変更となり、市民に好評なことから、これと合わせて平塚駅構内に七夕飾りを常設するための費用を今回の補正予算案に計上した。

議員研修会を開催

平塚市議会では、意思決定機関として、行政への政策提案など



さまざまな役割を担うため、研修活動を行っています。

1月21日には、「これからの自治体経営一民と官の連携における議会の役割」をテーマに、中央学院大学社会システム研究所の福嶋浩彦教授を招いた研修会を開催。熱心に耳を傾けました。

詳しく知るなら 会議録

12月定例会の会議録の閲覧は2月中旬から。

本会議や委員会の内容を記録した会議録は、市役所1階の市政情報コーナーや各地域の公民館、各図書館で閲覧できます。

市議会ホームページには、本会議やその他の会議の詳細な内容を掲載しています。

ご覧ください
市議会ホームページ
 市議会ホームページには、会議の日程、議案の一覧や審議の結果などを掲載しています。音声版「声の議会だより」を聞くこともできます。

平塚市議会

※ T I F (Tax Increment Financing) : 開発事業による固定資産税などの増収を見込んで、その開発事業を行うための資金を調達する手法。